

# 中本いま・むかし

中本小学校では、平成11年度より地域の方を招きむかしの生活や習慣についてお話しただいてきました。そのなかで井西康郎さんがむかしの中本のことを、お話くださった内容を抜粋して紹介いたします。

～第17回 定期便中本よもやまばなし 平成19年2月より～

二軒茶屋跡のすぐ東を流れていた猫間川に、慶安3年(1650)幕府の命により大阪市内で初めて石橋が架けられた。当時石で造られた橋は珍しく正しい名称は”黒門橋”だった。昔この付近にあった大阪城の玉造門が黒かったことに由来するが、皆は「石橋」とよんだ。

正徳元年(1711)に架け替えられた石橋を渡るには、1文支払わねばならなかった。現在の有料橋の始まりである。ところがこの橋を渡って、田畑の肥料にする下肥をくみ取りに行く今里・深江方面のお百姓は困り、奉行所へ訴えてたので、その人たちは無料になったとのことである。

猫間川に架けられた石橋は、巾13尺(4m)長さ22尺(6.7m)で、使用された石は縦3尺5寸(1.3m)横11尺(3.3m)厚さ1尺1寸(33cm)の長方形の6枚組だった。この橋は大正3年に取り壊され、昭和2年大阪市より土地の氏神である八坂神社と八王子神社に、石材として寄贈されたと”わがまち東成いまむかし”にある。

この橋を一目見たく両神社へ足を運んだが、見つけたのは両神社の記念碑だけだった。今年正月に図書館で「伊勢参宮本街道」の本にこの石が紹介されていることを知り、早速戎祭りまでにぎわっている八坂神社にお参りしてみたのである。4枚は神社の西堀に利用されており、せまい道路を通らねば見ることができなかつた。堀の長さの関係であろう、2枚は昔のままの姿を見せているが、もう2枚は切断され短くなっていた。その残材が神社の狛犬灯籠の台石に用いられていると聞いた。

この石の、皆が歩いた部分は欄干部より3mmもすり減っていたというが、230年間に歩いた渡橋者のわらじがさせたのであろう。昭和5年にたてられた「玉造名所二軒茶屋石橋旧跡」と刻まれた碑は、橋の一部の石材で造られたものとすく。区民ホールのだんちようは、玉造二軒茶屋近くの伊勢参りや寺社めぐりにぎわいを描いたものだ。

300年あまりの歴史を持つこの石は、いま私たちに何を語りかけようとしているのだろうか。大任を終えた石材が、もっと私たちに対話の場を提供して欲しいものだ。中本は申すに及ばず東成にとっても文化財的存在なのだから。

(完)

## 中本生涯学習ルーム

5月～6月に、中本小学校の多目的室で行われた活動を一部紹介いたします。

### こころもからだもリラックス ～リラックス・ヨガ～



リラックス・ヨガの動きは、呼吸に合わせてゆっくりと体を動かし、血液の循環をよくして体全体をほぐしていきます。

ひとつひとつの動作が体のどこに効いているのかを説明しながら指導していただきます。

### 自分の体を自分でケア ～自力整体～

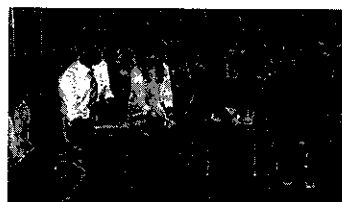
自力整体と、自分でマッサージするセルフ整体です。凝り固まった筋肉や関節をほぐしてあげて、体中にたまった老廃物を出し、自然治癒力のレベルを上げてゆがんだ骨格を、自分でリセット出来る無理のないマッサージ法です。



続けることによって、体の不快症状が消えていきます。

中本生涯学習ルームでは、今後もいろいろな講座を企画します。町会回覧板でお知らせしていますので、ご興味を持たれた方は一度参加してみませんか？

### 連携深め、はぐくんでいく ～本庄中学校地域懇談会～



毎年、本庄中学校では、各校下の地域の方や小学校の先生方やPTAの方々と、子どもたちの学校や地域での様子を情報交換しています。

学校・地域・家庭の連携を深め、子どもたちをはぐくんでいこうと活動しています。



### 編集後記

中本幼稚園と中本会館に取材に行きました。どちらの活動も、楽しいコミュニケーションの場になっているように感じました。はぐくみネットは、これからもみなさんの活動を情報発信していきます。

